

# こんにちは 牛越です



## 第169回 いよいよ芸術祭が開幕

作家の木村崇人さんと

先月13日、国際芸術祭が始まり、秋晴れのもと文化会館北側の文化公園で行われた開幕式には、名誉実行委員長阿部知事の代理副知事をはじめ、北川総合ディレクター、皆川ビジュアルディレクターとともに参加作家、スポンサーや協賛企業、議会や行政、芸術関係者など100人を超えるご来賓や、市民の皆様にご参加いただきました。

あいさつで私は、芸術祭はアートが持つ人をひきつける強い力でふるさと大町の魅力を引き出し、多くの来訪者との交流をにぎわいと市内の消費に結び付け、何としても地域の元気を再生したいと訴えました。コロナ禍を乗り越えた先の、持続可能なまちづくりへの道筋となるものと考えています。

芸術祭の準備を振り返りますと、いち早く8月に完成した、八坂公民館を丸ごと包み込んで作品に仕上げた「竹の波」や、社宮本仁科神明宮近くのマレット場跡に立ち上がった墨と和紙のモノクロームの作品など、地域の皆さんやボランティアの力により、制作が進められました。

平中綱に開設される公式レストラン&カフェ「YAMANBA」では地区の皆さんが招待され、会期中に提供される料理を試食し、開幕に思いをはせていました。

また、開幕に先立ち、市内ではさまざまなタイアップイベントが開かれ、先月8日には「山と、水と、」をテーマとした、信濃大町美術展おおまちセレクションが開幕し、地元作家の作品や大町を描いた収蔵品など絵画や工芸、書など約60点の作品に多くの観客が訪れました。

大町駅前周辺では、空き店舗を活用して、おもてなしショップが毎週土・日曜日、祝日に日替わりで開店し、手作りアクセサリーや帽子、フルーツバーやシフォンケーキ、おにぎりやテイクアウト料理などを提供します。

また、10月中の26日を除く毎週土・日曜日、祝日には、信濃おおまち民話プロジェクトにボランティアの皆さんが加わり、駅前で来客に湯茶や音楽、踊りなどのおもてなしが計画されています。

こうした市民の皆様のご参加により、いっそう多くのお客様が来訪しますよう力を尽くしてまいります。